HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」
Citation	, 76, 1-23
Issue Date	1988-10-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/66480
Type	periodical
File Information	yuin76.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館報

楡蔭

The Hokkaido University Library Bulletin　No. 76　Oct. 1988

目　次

○全国図書総合目録と人文・社会科学の研究
経済学部教授　石坂昭雄… 1
○北大オンライン目録に関して
情報システム課情報処理掛長　宇野弘純… 3
○資料紹介
昭和62年度特別図書購入費で
購入した図書…… 7
○北の古典籍　④　秋月俊幸… 8
○会　議……10
○研　修……12
第9回 EDC (EC 資料センター) セミナー……12
昭和63年度大学図書館職員長期研修に
参加して (高崎仁雄)……13
○昭和62年度各種統計……15
○電算化ニュース……20
○受贈図書……22
○人事往来……23

全国図書総合目録と人文・社会科学の研究

経済学部教授　石　坂　昭　雄

最近でこそ，人文・社会科学の分野でも，コンピューターを始めいろいろの新しい研究手法が導入されて，データや研究資料についての観念も大きく変わりつつあるが，それでも，雑誌も含めた図書がその研究の最も重要な手段であることには変わりはないし，これからも，形は変わっても引き続き研究の生命としての地位は失わないと思われる。しかし，図書の利用形態やその保存や管理にあたる図書館の役割は，少なくとも第2次世界大戦後は，大きく変化したようである。

戦前の通念では，わが国の研究が，外国の研究成果の移入に大きく依存していたこともあって，調査研究などを別にすれば，比較的限られた数の優れた著作や雑誌論文を丹念に読むことによって，そこから色々な学説や思想を引き出すことにあったように思われる。しかし，現在では，学術出版が難しくなったとはいえ，年々膨大な数の文献が世に出され，また，雑誌論文も，専門の分化にともなって学会誌だけでも夥しい数に上っており，これに各大学の紀要とか，研究集会の報告集が加わる。従って，いかに努力しても各大学の図書館や図書室が，ある専門分野の基本的文献や資料を一通りにせよ揃えるのは，限られた予算の中では不可能に近いし，またわれわれ研究者が，他日に備えて，あるいは後の世代のために，現在の自分自身の研究との関わりの薄い方面にも気を配ったとしても，いろいろな重要文献の出版に気が付かず，

求めた時にはもう絶版の憂き目を見ることも珍しくない。従って，現在でも，何か特定のテーマで研究を始めるに当たっては，最初から文献，とくに雑誌論文などの複写もふくめて，他大学の図書の共同利用ないし相互貸借に頼らねばならないし，今後もますますそうなるのは避けられないであろう。この点では，わが国の相互利用の体制は，最近大分改善されたとはいえ，まだ非常に遅れており，さすがに今では，「蔵書権」を楯に1冊全部の複写を拒んだりすることはなくなったが，館外持ち出し禁止の貴重書の場合は業者への外注が不可能なため複写を断られることが多い。国立大学同士でも，国際的に見て，また民間の業者と比べても複写料金は驚くほど高いし，本の現物の相互貸借で借り出せるのは，限られた場合のみである。もっとも，図書館の間での格差が大きい現状では，特定の大学に希望が殺到するので，有力図書館側が消極的でその促進は容易ではないであろう。

しかし，それ以上に，他の研究機関の文献を活用するに当たって研究者が悩まされるのが，日本での文献検索が不便極まりないことである。そもそも，同じ大学内でも，長年，附属図書館と各学部や研究所の図書室が，まったく独立に図書を購入し登録し，カードを作成して，1960年代までは，新規購入分についてさえ，各部局図書室も含めた学内総合目録が存在しなかったから，いちいち他の図書室に出向いて検索せねばならなかった。いわんや学外となれば，必要な文献を複写したくとも，全国の洋書の所在を確認する手掛かりとしては1954年以降の国会図書館および全国の主な大学図書館を含む新収洋書総合目録のみで，所在をあちこちに問い合わせるのに多大の時間と労力をかけねばならず，それでもうまく依頼できるとは限らない。そこでいきおい，外国書については，国外に依頼した方が，検索も便利であるし，航空料金を払っても安上がりのことが多い。国外への依頼にあたっては，北大附属図書館にも一式揃っている，イギリスであれば，ナショナル・ライブラリー（旧大英博物館付属図書館），フランスの国立図書館，アメリカの国会図書館など，戦前から定評のあるカタログがあるが（この点では，現在では有力な国立中央図書館をもたぬ西ドイツの場合はひどく不便である），これら諸国の場合，それぞれ特色のある多くの大学図書館ないし国公立図書館が優れた蔵書を誇っており，混雑している中央図書館に集中しないで最も適切な所に依頼できればお互いに便利である。この点で，アメリカ合衆国が戦後全国の図書館の蔵書をくまなく網羅したユニオン・カタログを完成させ頒布したことは，アメリカが文化的にも戦後世界一のリーダーだった頃のひとつの輝かしい国家的大事業であり，世界中の研究者がどれだけその恩恵を被っているか分からない。というのも，アメリカは，その圧倒的な国力を誇った時代に世界中の多くの文献を吸収してきたから，たとえば，ヨーロッパで戦災で失われたり，またソ連・東欧圏などで複写がひどく困難なものでもアメリカで手に入ることが多いからである。今や経済的には大国の仲間入りをしたわが国は，当然のことながら，世界に対して文化面でも多くの責任を負い，また日本研究もますます盛んになるだけに，この現状は早急に何とかしなくてはならない。和漢書については改めて言うまでもないが，アジア地域の研究のセンターとしての機能を果たすためには外国図書についてもきちんとした総合目録を完備する義務がある。現在では，幸に電算機が活用できるようになったから，その作成面でもまた利用のうえでも事情は好転したのではないかとおもわれる。そのためにも一つの前提として著作権法を改正して，今後日本で出版される図書については，著作権成立の要件として，出版時点での国会図書館での登録と検索語を含む電算機入力（従って学術情報センターのデータ化）を義務付け，各図書館はそのマークを自動的に利用できるようにしたら大変この仕事が捗るだろう。勿論，遡及して全国の総合目録を作成するのは大変な難事業ではあるが，ひとつの文化的大事業として資金と労力を投ずるに十分値する，というよりも当然これまでに進めておかねばならなかったことであり，要はその必要についての研究者や図書館関係者の深い認識と熱意にかかわっているのではないだろうか。

北大オンライン目録に関して

情報システム課情報処理掛長　宇　野　弘　純

昭和61年4月にスタートした北大蔵書検索システムは，データ量が増えてきていること，簡単な操作で使える仕組みであることなどから良く利用されています。附属図書館利用者用端末での1台当り1日平均の検索回数は昭和61年度では63回，昭和62年度では78回となっています。この間，いくつかの要望・疑問もよせられています。このうちの次の3点に関して，システム設計・運用部会での議論等を思い出しながら説明を試みたいと思います。

1. カード目録の分も全部オンラインで検索できないのか。
2. ローマ字変換でカナ入力できないのか。
3. 件名で検索できないのか。

1. オンライン目録

「カード目録の分もオンラインで検索したい」。これはオンライ目録支持の表れでもあります。実際，次図に見るようにオンライン目録はカード目録に比べて数段優れた方式です。

目録種類 比較項目	カード目録 (全学総合カード目録)	オンライン目録 (CLARK 検索)
データ作成	大部分は北大図書職員が作成したもの	国会図書館，アメリカ議会図書館などが作成した書誌データ (MARC) が80% 以上。
書誌情報	著者，翻訳者 書名，原書名，シリーズ名 北大付与分類記号	著者，翻訳者 書名，原書名，シリーズ名 北大付与分類記号，各 MARC 付与分類記号 ISBN などの書籍コード 各 MARC 付与の件名
所在情報	カード作成時の所在場所	現在の所在場所，「貸出中」も表示
表示の単位	製本単位の1冊	雑誌については新着受入れの1冊単位まで
検索のキー	著　者	著者，翻訳者 書名，原書名，シリーズ名など 書名中の重要語 北大付与の分類記号 書籍コード，資料番号
検索方法	カードめぐり	キーボード入力
検索方法	完全一致検索 木村吉男 経済成長と技術進歩	完全一致検索　キムラヨシオ (著者) 又は， ケイザイセイチョウトギジュツ (書名) 前方一致検索　ケイザイセ¥ 論理積　ケイザイ　と　ギジュツ
検索場所	本館参考閲覧室	全学の部局中央図書室。パソコンからも可能
データ量	昭和61年3月までの蔵書 * 雑誌は冊子体目録	雑誌は全所蔵誌。図書は S. 61. 4 以降のものと遡及入力分 (現在18万冊) で約30万冊
更　新	各部局で作成後ほぼ1年遅れ。	各部局で入力後翌々日に検索可能

2. 遡及入力

昭和61年度末の蔵書は約240万冊です。その内約80万冊は製本雑誌です。この北大所蔵の雑誌についてはほぼ全タイトル (約3万) と所蔵全巻号情報が入力済みです。電算化以前の図

書も約20万冊が遡及入力されていますから計100万冊以上の遡及データが入力されていることになります。現在も遡及入力作業は計画的に進行中です。240万冊すべての入力は当然無理ですが現実的で効率的な作業はどの程度でしょうか。

＜入力対象数＞240万冊から上記約100万冊を差し引いた140万冊の図書を今後の遡及入力の対象と考えます。このうち複本（約43%＝北大には同じ本が平均して2冊ある）を差し引くと入力対象書誌は約80万件で全てとなります。これに利用頻度を考慮してみます。自然科学分野雑誌の場合，利用の80%は所蔵タイトルの20%に集中しているとされています。人文・社会科学分野の図書でも利用に関する片よりがあると思われます。当面，利用頻度の高いものから50%つまり40万件の書誌を入力したならば「ほとんど入力されている」と感じていただけると思います。書誌40万件を遡及入力の目標として良いと思います。

なお，現在までの遡及入力班の入力ペースは年間計算で書誌が約8万4千，冊数14万2千です。ただし作業が先に進むほどオリジナル入力が多くなること，要員確保の見通しが必ずしも明るくないこともあって今後ともこのペースを維持出来るとは限りません。

＜入力データ＞遡及入力の発想の基本は，カードの分も電算機に入力して①多様なアクセスポイントによる検索と②オンライン検索への1本化を実現することです。したがって作業の基本はカードに記載されている情報をそのまま磁気ディスクに書き換える転記作業です。

この作業は北大では学術情報センターと接続し即時取込みしながら行いますので，ほとんどの書誌情報は同センターの詳細なデータに置き換えられます。所在情報はカード目録に記載されていた「当時の所在」をそのまま入力します。現在とは違う所在がそのまま反映されることもあります。これを嫌って所在情報の単純な転記をためらうことは肝心な1項目を除いて浄書するようなものです。その結果，①オンライン検索の後更にもう一度「下書き」（カード）で所在を調べる。そのために②「下書き」を保管しておく，そのために③「下書き」を既入力の印を付けて再びカード目録に戻すなど余分な作業がいつまでも続きます。

講座名変遷の追跡など図書職員としても厄介なケースが増えることを承知しつつ遡及入力をするのは転記するだけでも多くの検索上のメリットを提供できるからです。

3.「ローマ字変換カナ入力」

ローマ字変換モードを提供していないのは次の理由によります。

① 翻字方法（ヘボン，訓令）の周知が困難である。利用者の理解，検索の効率の面からも「和文はカナ，欧文はアルファベット」で行い索引語と直接対応させたほうがよい。

② 入力モード変換の周知が困難

現在は＜カナ＞と＜英数＞のワンタッチ切り替えで単純に使い分けができるが，3つの入力モードの切り替え方法を全員が習得するのは困難。機能を追加するとそれを使わない人にも影響する。

③ 英文字配列も熟知していない人には意味がない。

ワープロなど使いなれている人から見ると「不便」なこともあります。しかしオンライン目録は新入生などを含めた不特定多数の利用者が「すぐに使える」ことが必須の条件です。「事前にシステム的な知識を必要としない」「誰もが画一的に了解できる単純なしくみ」の方が高級ではありませんが良いシステムだと思います。

この「検索語入力のわずらわしさ」を解消する一つの方法は単純な「音順配列キーボード」の採用であると思います。15文字以下の検索語を打つだけの利用者端末には，誰もが習得している「ABC」「アイウエオ」が良いのではないかと考えています。

4. 件名検索

はじめに，図書館サイドから言葉の使い分けを説明したいと思います。文献情報要求つまり「文献検索」は2つに分けて対応が考えられています。

一つはある主題関心をもとに「世の中にどんな内容の学術情報が発表されているか」を調べる「情報検索」です。この場合「文献」は図書名・雑誌名に留まらず論文・記事・抄録まで必要とします。これに応えるものとして各専門分野に分かれて多くのデータベースが世界的規模で作成されています。主題関心を表現する「件名」も「用語」として統制され，各分野ごとに「辞典」が用意されています。ただしこのサービスは大学図書館の利用者の全員が使うとは限りません。データベースを持たない，又は必要としない分野もあります。

もう一つは(そこで得られた)確定した書誌事項をもとに「この文献の所在はどこか」を調べる「蔵書検索」です。この書誌所在情報は個々の図書館しか提供できませんし，大学図書館の利用者全員が必要とします。対象が所蔵単位つまり図書名ですのでここで「件名」を付与したとしても大まかないわゆる自然語による「一般的な言葉」になります。

「情報検索」と「蔵書検索」とは情報要求としては一体であり，ともにコンピューターによる検索ということもあって具体的要求がクロスしがちですがその提供機能は社会的に分担されていると言えます。

次に，件名検索の実際を学術情報センターの国会図書館納本データで試みてみます。

主題関心： 電算機にかんする本にはどんなものがあるか。

件名＜コンピューター＞で233件がヒット。少なすぎるようなので＜電子計算機＞で検索したら3,875件がヒットした。＜電子計算機＞で検索すべきであったのだ。事実，国会図書館の「件名標目表」によると＜電子計算機＞の方が“正しい件名”であることが判る。しかし，国会図書館の専門職員が誤って付与した件名＜コンピューター＞でも検索してみないと23件の資料が漏れることになる。

同じく： 図書館の電算化関係の本： を探してみる。＜図書館＞で561件。つづいて“電算化関係”の件名を何にするか。＜電算化＞＜機械化＞＜合理化＞いずれも0件。上の例から当然＜図書館＞ & ＜電子計算機＞で検索すべきところと試みたら2件がヒット。少ないので「件名標目表」を調べて＜図書館＞ and ＜オートメーション＞で検索して64件を得た。

この例で解るように蔵書検索に「件名」を採用すると次のような問題・不満が残ります。

① どのような言葉，表現で＜件名＞が索引されているかを予め知っておく必要がある。付与する側も利用者も分厚い「件名標目表」を手元とに置くことになる。

ちなみに，“女性”では なく＜婦人＞が，“イスラム教”ではなく＜回教＞が，“進駐”ではなく＜占領＞が，そして「進駐軍の労働者」は“占領軍労働者”でも“占領軍労務者”でもなく＜駐留軍労務者＞が正規の件名である。

② ＜件名＞は大まかすぎて細かな要求を満たせない。

せいぜい＜図書館の電算化関係＞までであって＜図書館電算における蔵書検索システム＞となると受けきれない。全分野に対して約2万語しか用意していない。「情報検索」の場合，たとえば医学分野だけの INDEX MEDICUS だけで約1万5千語である。

③ CLARK 検索は蔵書検索である。日本的・世界的広がりに向けられた「主題関心」による文献要求に「北大に在る図書・雑誌」だけで答えるのはもともと不十分である。

また，

④ CLARK 検索システムでも件名検索とほぼ同じことが出来る。

・まず，主題関心に典型的な(既知)の文献を検索し，書誌詳細表示画面で分類記号を知る。
・そこで得た分類記号を検索語として検索する。Ex. <DC 16：025 ¥>
ちなみに，同じような内容の図書に別々の分類記号が付与されていることに驚き不満を抱くと思われます。この驚きと不満は「件名検索」にそのまま引き継がれます。

⑤ NACSIS-IR を使えば Japn MARC, LC MARC の件名検索ができる。

⑥ システム管理上インデックスファィルを余り大きくしない方が良い。

以上のことから入力作業・コンピューター資源の使用に見合った費用効果は得られないと判断し CLARK 検索には「件名」を採用していません。

しかし，CLARK 検索に「件名」を採用していないからと言って北大図書館システムが文献検索のもう一つの柱である「情報検索」に関与しないということではありません。次の事実からむしろ積極的に対応していると言えると思います。

① 学術情報センターが提供する各種データベースの NACSIS-IR 検索を CLARK 端末でも利用できるようにした。これによってパソコンなどを持たない図書室でも有力な外部データベースによる「情報検索」が可能となった。(有料代行検索)

② CLARK 蔵書検索を研究室等からのパソコンによる検索を可能にした。現在のところ機種が限定され特定の通信ソフトが必要であるが，近い将来図書館側の機能追加，学内 LAN 実現などにより大幅な拡張が予想される。

これらによって「文献検索」つまり NACSIS-IR, JICST, DIALOG などの情報索，NACSIS の図書・雑誌全国総合目録検索，CLARK の蔵書検索を研究者は居ながらにして一つ端末操作で満たすことが出来るようになります。

<情報サービス課よりお知らせ>

附属図書館本館書庫内雑誌のオンライン処理による
貸出方式への業務移行について

本館書庫内に所蔵する雑誌について，昭和63年11月1日より従来の手書きによる貸出方式からオンライン処理による貸出方式へ業務の移行を行いますので下記の点にご留意ください。

1. 貸出しを希望される場合，教職員・研究生は図書館利用証（旧図書利用票）学生は学生証が必要ですので忘れずに携帯してください。携帯されない場合は貸出すことができません。
2. 図書館利用証は各部局図書室（法学部・言語文化部はそれぞれ本館・教養分館）で発行しております。

なお，詳細については情報サービス課閲覧掛内線 3957, 2971 までお問い合わせください。

(閲　覧　掛)

資料紹介

昭和62年度　特別図書購入費で購入した図書

近世文学資料類従　古俳諧編　1-48　昭和47-52年

古俳諧編は犬子集，遠近集など江戸期の蕉門俳諧以前の貞門俳諧，談林俳諧の版本，写本類を系統的に複製したものである。

元暦萬葉集（影印本）　昭和3年

萬葉学上最も重要な古鈔本の一つであり，又古筆上からも勝れた位置にある元暦校本萬葉集の影印本。

Die alte Stadt; Zeitschrift für Stadtgeschichte, Stadtsoziologie und Denkmalpflege. Jg. 1-13, 1974-1986.
（ドイツ都市史・都市社会学雑誌）

ドイツを中心としたヨーロッパの都市社会学的研究が収録された雑誌。

Volkskammer der Deutschen Demokratischen Republik.
1-7. Wahlperiode, 1949-1981.
（ドイツ民主共和国人民議会速記録）

ドイツ民主共和国の建国以降の人民議会速記録及び議会文書。

The Occupation of Japan: U.S. Planning Documents 1942-1945. 1987.
（日本占領：対日占領政策の形成　1942-1945）

米国による対日占領政策の形成過程を原文書で構成したマイクロ版史料集成。「第二次諮問委員会」の国務省内設置を機に本格化した「戦後世界の設計図」考案の第一歩から終戦にいたる過程を米国立公文書館所蔵の機密解除文書ほかであとづけしたもの。

Johann Gottfried Herder: Sämtliche Werke 1-33.
1877-1913. (Reprografischer Nachdruck)
（ヨハン・ゴットフリート・ヘルダー全集）

ゲーテ，シラーと並ぶ18世紀ドイツの思想家 J. G. ヘルダーの全集。その思索活動は，歴史哲学，社会・文化思想から文芸批評，言語学，美学に至るまで多岐にわたる。

毎日申報　7-62 (1914-1938)（影印本）　1984-1985

毎日申報は，日本統治下の朝鮮で「日韓併合」以来発行され続けた新聞で，漢字とハングル文字の混交文で書かれている。なお，1-6は経済学部で所蔵。

楡　蔭

北の古典籍 ❹

松浦武四郎の蝦夷地探検

今年は，蝦夷地探検家として有名な松浦武四郎の没後100年にあたり，北海道や生地の三重県三雲町では種々の催しが行なわれることになっている。武四郎は一般に「北海道」の名付け親として知られているが，そのことについては少しばかり注釈が必要である。箱館戦争終結後の明治2年7月，すでに蝦夷開拓御用掛に任じられていた武四郎は，それまで「蝦夷地」とよばれていた北海道の改称を太政官に上申したとき，「北海道人」という自らの雅号を避けて「北加伊道」，「海北道」などの6案を提示した。結果としては彼の遠慮した「北海道」という名称が選ばれたのであるが，そのことは古代から日本の地方区分として用いられてきた東海道，西海道，南海道などの名称との関連で，ごく自然なものであった。それより早く水戸藩主徳川斉昭も，『北方未来考』という著作の中で蝦夷地のことを「北海道」とよんでいたのである。松浦武四郎の独自性は，彼が道名案とともに提案した北海道を11国（渡島，石狩，十勝など）に分け，さらにそれを86郡に細分する案にあらわれていた。この提案は，彼の与えた漢字の表記とともにほとんどそのまま採用され（明治2年8月15日公布），今日に及んでいる。

江戸時代の北海道は，和人の住む渡島半島南端を松前地と称し，日本海およびオホーツク海に面した地方を西蝦夷地，太平洋沿岸から知床岬までを東蝦夷地とよんでいたが，それらは単に沿岸地方を指すもので，内陸に及ぶものではなかった。当時の日本人の活動は全て沿岸漁業に限られていたからである。幕末期に蝦夷地が東北諸藩に分領された際に内陸の境界が問題になったことがあったにせよ，明確な分界はそれほど必要とはされていなかった。それだけでなく内陸の地理状況の調査なしには，そのことは不可能だったのである。松浦武四郎が近代国家を目指す明治新政府の北海道経営着手に際し，前記のような国郡案を提案することができたのは，彼がすでに北海道の内陸部まで熟知していたからで，彼の示した国郡境は全て自らの探検で確認したアイヌ旧来の慣習にもとづくものであった。武四郎は明治2年秋に刊行した木版色刷りの「北海道国郡全図」においても，地図上に国界および郡名を示している。（とはいえ精密な郡界が決定するのは，内陸部の地形測量が全道に及んだ明治20年代以後のことである）。それゆえ北海道地方行政の基礎である行政区画の確立は，江戸時代末期における松浦武四郎の前人未踏の蝦夷地探検に負うていたのである。

17歳で郷里の伊勢を離れて10年近くも諸国を遍歴していた松浦武四郎が，初めて蝦夷地探検を志したのは，九州滞在中のことであった。彼は津川蝶園という長崎の町年寄からロシア南下の懸念を聞かされて，「蝦夷ヶ島の隅々まで探り，何時の日にか国の為たらんことを」決心したという。しかし当時の松前藩は他国の旅行者の松前到来を厳しく制限し，まして蝦夷地への立入りは認めていなかったので，武四郎はつてを求めて江差の人別に入り，場所請負人の手代あるいは北蝦夷地勤番の藩医の従者の名目で，弘化2年(1845)から嘉永2年(1849)の間に3度の蝦夷地旅行をおこなうことに成功した。彼はその間に北海道と南カラフト沿岸を一周し，クナシリ島とエトロフ島まで訪れているが，その成果は嘉永3年中に江戸において『三航蝦夷日誌』全35巻にまとめられた。この本は刊本（吉田武三校註，吉川弘文館刊）にしても1,100ページを越す大著であり，東西蝦夷地，カラフト，そして南千島に関する行程記風のすぐれた地誌となっている。そこでは蝦夷地に関する多数の旧記を引用して自らの見聞を補っている

『竹四郎廻浦日記』自筆本　安政3年 (1856)

が，それらの文献名を列挙しただけでも，彼が単なる蝦夷地探検家ではなく，非常に広い視野と深い学識をもつ人物であったことが明らかである。

安政2年 (1855) 蝦夷地が再び幕府の直轄地になると，武四郎は幕府の御雇いとなり，安政3～5年の3年間にさらに3回の蝦夷地探検をおこなった。都合6回の蝦夷地探検によって彼は北海道の全沿岸を3周，南カラフト沿岸を2周したことになるが，安政4～5の両年には主として和人の足跡の稀であった大小の河川を溯り，山脈を越え，奥深い沢をたどって内陸の地理調査に従事したのである。当時の北海道は沿岸でさえ人工的な道路というものは殆んどなかったので，内陸探検の困難さは想像に余りあるが，彼は旅行中に自分の見聞や現地でえた情報を詳細に野帳に記し，多数の巧みなスケッチ画を作成した。それらの資料にもとづいて編纂されたのが，『竹四郎廻浦日記』31巻 (安政3年)，『丁巳東西蝦夷山川取調日誌』24巻 (安政4年)，『戊午東西蝦夷山川取調日誌』61巻 (安政5年) という計116巻の尨大な紀行日誌である。これらの日誌には探検の状況が生き生きと写し出され，各地の地理，戸口，産物，風俗などのほか，そこで出会った多数の人物のことまで記録されている。(いずれも近年高倉新一郎，秋葉実両氏の解読で北海道出版企画センターより刊行)。武四郎はこれらの諸日誌のほかに，それらの内容を要約して広く世に知らせるために，『石狩日誌』，『天塩日誌』，『十勝日誌』など地域毎の「東西蝦夷山川地理取調紀行」全24巻を編集し，自ら木版で刊行している。松浦武四郎の『蝦夷日誌』としてこれまで知られてきたのは，それらの要約版である。

以上のことから，松浦武四郎が北海道の国郡を定めるに充分な資格をもっていたことが理解されるが，そのことはまた彼の作成した「三航蝦夷全図」(嘉永6年) および「東西蝦夷山川取調図」(安政6年) という2種類の大地図にもあらわれている。前者は北海道，カラフト，南千島を含む手書彩色図 (340×250 cm)，また後者は経緯度各1度の24枚よりなる北海道の木版色刷図 (236×353 cm) である。そこにはアイヌ語の地名がびっしりと記入され，とくに後者においてはそれは内陸部まで埋めつくしている。これらの地図が今日においてもアイヌ語地名研究の宝庫とみなされているのは，武四郎ほど北海道の地理を窮め，それを詳細に記録した人はいなかったからである。

(北方資料室・秋月俊幸)

◆ 会　議

第139回　図書館委員会

<と　き　　昭和63年7月28日（木）>
<ところ　　附属図書館会議室>

議　　題

1. 昭和63年度予算（図書館資料費）について
2. そ の 他

第95回　分館委員会

<と　き　　昭和63年7月20日（水）>
<ところ　　教養分館会議室>

議　　題

1. 昭和63年度図書予算配当（案）について
2. 昭和63年度参考図書及び視聴覚資料の選定について
3. そ の 他

図書担当掛長会議

<と　き　　昭和63年6月29日（水）>
<ところ　　附属図書館会議室>

議　　題

1. 会計検査院の会計実地検査について
2. そ の 他

第35回　国立大学図書館協議会総会

本年度の国立大学図書館協議会総会は，近畿地区の当番で神戸大学が当番館として，昭和63年6月23日24日の両日にわたって開催された。参加者等は，96大学，240名で，文部省から，緒方学術情報課長，安達調査官，船戸係長が出席した。なお，議事等は，次のとおりである。

○ 協 議 事 項
　① 理事選出について
　② 監事選出について
　③ 昭和62年度決算報告・同監査報告について
　④ 昭和62年度岸本博士記念基金収支決算報告・同監査報告について
　⑤ 昭和63年度の事業計画（案）について
　⑥ 昭和63年度予算案について
　⑦ 関係団体派遣役員の選出について
　⑧ 特別委員会等について
　⑨ そ の 他

○ 研 究 集 会
　テーマ　学内 LAN と図書館の位置づけについて
　　① 北海道大学，和歌山大学
　　② 文部省，京都大学
　　③ 東北大学，熊本大学　　からそれぞれ発表。

○ 分 科 会
　第1分科会（運営・サービス）
　　1. 高速ファクシミリの導入について

2. 4週6休閉庁方式実施時における図書館サービスのあり方について
3. 図書館建築基準の見直しについて
4. 外国学術図書のデータベース化の促進について
5. 図書館資料交換の推進について
6. 相互協力について
7. 学内における研究用図書の選書態勢について
8. 大学図書館のインテリジェント化
9. 外国人留学生に対する図書館の対応
10. 学術情報システム構築に対する対応について
11. 文献複写に係る著作権問題について

第2分科（予算・人事）

1. 課の名称変更に伴う係の名称と業務内容について
2. 学術情報システムへのそ及入力促進について
3. 図書館建築基準の見直しについて
4. 図書館情報学関係「非図書資料」の保存について
5. 学術図書，雑誌購入費の増額について
6. 国家公務員採用試験二種（図書館学）合格者の採用について
7. 保存図書館について
8. 大学図書館職員の確保について
9. 4週6休（閉庁方式）の実施に伴う予算措置について

○ 全 体 会 議

各分科会のとりまとめ

第38回 北海道地区大学図書館協議会総会

本年度の北海道地区大学図書館協議会総会は，道都大学の当番により，7月23日に開催された。23大学45名が出席し，恒例により当番館の道都大学西谷館長を議長に選出し，議事が進められた。なお，協議事項は次のとおりである。

報 告 事 項

1. 幹事館会議
2. 第31回北海道地区大学図書館職員研究集会
3. 各館界の動向
4. 昭和62年度協議会決算・同監査

協 議 事 項

1. 釧路公立大学附属図書館の協議会加盟について
2. 北海道東海大学の組織改革に伴う加盟変更について
3. 協議会の事業計画について
4. 昭和63年度協議会予算（案）について
5. 次年度総会及び研究集会当番館等の確認について
6. そ の 他

なお，第39回総会の当番館は，東日本学園大学，第32回研究集会の当番館は，北海道工業大学に，それぞれ決定した。

◆ 研　　修

第31回　北海道地区大学図書館職員研究集会

<と　き　　昭和63年8月19日（金）>
<ところ　　北　星　学　園　大　学>

本年度の研究集会は，北海道地区の22大学，150名及び加盟館以外の団体からオブザーバーとして20名の参加があった。当日は，各参加者とも終始熱心に傾聴し，活発な質疑が交わされ，有意義かつ盛会裡に終了した。

○　研　究　発　表

図書館の電算化について

司会	北海学園大学	石木田　忠　義
	北海道工業大学	河　村　芳　行
発表者	北海道教育大学	佐　藤　貞　司
	札　幌　大　学	下　田　　誠
	酪農学園大学	浦　川　利　幸
	北海道工業大学	五十嵐　武　義
	北　海　道　大　学	田　中　健太郎

○　特　別　講　演

書誌情報の将来　　国立国会図書館図書館研究所長　丸　山　昭二郎

第9回 EDC（EC資料センター）セミナー

EDC (European Documentation Centre) とは，EC（欧州共同体）によって欧川統合に関する研究を積極的に行っている大学，研究所に設置されている EC 資料センターのことで，現在世界に約500設けられている。

本学附属図書館は1982年に EDC に指定され，今年で7年目を迎えた。この間，ルクセンブルクの EC 出版局から直接送られてくる EC 諸機関の公式資料・出版物をはじめ駐日 EC 委員会代表部広報部発行の「月刊 EC ジャーナル」「月報 EC 公式資料」などの日本語の広報資料，EC 文献に関する書誌類など資料も次第に増えて充実してきている。附属図書館ではこれらの資料を2階参考閲覧室内の EC 資料コーナーに配架し，広く利用に供している。

日本には現在17の大学に EDC が，国立国会図書に DEP（寄託図書館）が設置されている。これらの EDC 間の連けいを保ち，EC に関する図書館活動の向上発展に寄与することを目的として「在日 EDC 協会」が組織されており，その活動の一環として EDC 担当者の研究集会ともいうべきセミナーが毎年開かれている。今年はその第9回セミナーが6月2～3日の2日間当館を会場にして開催された。今回のセミナーでは，1992年に向けての域内市場統合に関する講演，EC 文献の書誌作成，資料検索法，資料整理方法など密度の濃い研究報告がなされた。また，EDC を広く理解し，利用してもらうための広報活動の一つとして EDC ポスターを作成することが決定した。ポスターは近日中に完成し，関係機関に配布される予定である。

本セミナーの開催にあたって経済学部教授石坂昭雄，佐々木隆生の両先生並びに駐日委員会代表部広報部の皆様に多大のご支援・助言をいただいた。この紙面を借りてお礼を申しあげます。

第9回 EDCセミナー日程

(1日目) 昭和63年6月2日(木)
北海道大学附属図書館会議室

9:00 受　付
9:30 開会の辞　北海道大学附属図書館事務部長　斎　藤　現太郎
挨　拶　北海道大学附属図書館長　大　野　公　男
挨　拶　駐日EC委員会広報部情報サービス室長　ミゲル G. オロスコ
オリエンテーション
10:00 自己紹介及び各館活動報告
10:30 講　演　「The Road to 1992」　駐日EC委員会　ミゲル G. オロスコ
11:30 研究報告
1. EC関係雑誌記事索引について　中央大学　石　塚　さとみ
2. オンライン検索を用いてのEC関係文献リスト作成の試み　早稲田大学　山　本　ちえ子
12:00 昼　食
13:00 研究報告
3. EDC利用ガイドの作成について　慶応大学　廣　田　とし子
4. 北海道大学図書館オンラインシステムによるEC資料の整理について　北海道大学　井手上　恵　子
5. EC法の概要とその検索方法について　西南学院大学　小　嶋　哲
6. 欧州共同体刊行資料目録(国立国会図書館)の編集経過と内容について　国立国会図書館　石　川　光　二
15:10 ティータイム
15:30 レファレンス事例報告　駐日EC委員会　市　川　啓　子
16:15 図書館見学
18:00 懇親会

(2日目) 昭和63年6月3日(金)

9:00 講　演　「欧州統合と西欧国民国家」　北海道大学経済学部助教授　佐々木　隆　生
10:30 ECへの要望
11:00 今後のEDC活動について　北海道大学　山　口　國　雄
まとめ
次回当番館紹介　駐日EC委員会　市　川　啓　子
12:00 閉会の辞　北海道大学附属図書館情報サービス課長　石　黒　克　介

「昭和63年度大学図書館職員長期研修」に参加して

高　崎　仁　雄

文部省及び図書館情報大学主催による。本年度の研修は，7月18日から8月5日までの3週間にわたり，筑波研究学園都市に位置する図書館情報大学を中心として筑波大学図書館，東

京大学総合図書館，同大学大型計算機センター，学術情報センターなど12会場で開催された。日程としては筑波地区10日間，東京地区10日間，講義，演習，見学，共同討議など多彩なプログラムで実施されました。

この研修は，大学における教育，研究活動の急速な進展に伴い，学術情報の迅速かつ的確な提供が重要となっており，大学の中核的な情報資料センターとしての大学図書館が果たす役割はますます増大している。このため，大学図書館の情報提供サービス体制を充実すると共に，学術情報に関する最新の知識を教授し，職員の資質と能力の向上を図ることを目的としたものである。

全国から参加した研修生は国立32名，公立1名，私立4名の計37名(男性27名，女性10名)で，すでにコンピュータが導入稼動している大学及び導入を計画中の大学の中堅職員が中心であった。

講義内容は，(1)総論，(2)一次資料の整備と相互協力，(3)目録・所在情報の形成と大学図書館の電算化，(4)二次情報データベースの形成とネットワーク，(5)情報検索サービス，(6)その他(関連講義，共同研究討議，研修・見学)について行われた。

研修第1日目は，受付，オリエンテーションに続き，図書館情報大学竹内附属図書館長の「大学図書館の在り方」の講義に始まり，本研修の講義は学術情報システム，オンラインネットワークに関する内容が中心に行われた。

情報検索では，マニュアル検索，機械検索の両面にわたり行われ，筑波大学でのマニュアル検索では，二次資料の内容構成等の説明があり，グループに分れて指定された二次資料を使い，検索実習が行われた。機械検索では，東京大学大型計算機センターの全国共同利用としての学術情報検索システム「TOOL-IR/ORION」を利用して化学文献データベース検索システムであるCASデータベース，また学術情報センターの情報検索サービス「NACSIS-IR」を利用して，二次情報データベース，MARCデータベース，目録・所在情報データベース及び目録システムを，それぞれの検索実習が行われ，目録システムについては検索及び登録の実習が行われ，日常利用したことのないマニュアル，機械検索を限られた時間内での実習ではあったがそれなりに有意義であった。また情報検索サービスは今後ますます機械検索へと移行して行くであろうが，表題，著者名，抄録，所在等の二次情報を提供する文献情報検索サービスをするだけではなく，一次資料を利用者へオンラインで提供できることが理想ではあるが今日ではまだ無理である。これをサポートする図書館での分担収集を含めた一次資料の収集体制と書誌・所在情報の整備，並びに資料の効率的運用を計るための図書館間相互協力のネットワークの必要性を強く感じた。

はじめに記述した会場以外に，高エネルギー物理学研究所，農林水産技術会議事務局筑波事務所，国立国会図書館，慶応義塾大学三田情報センター，電気通信科学館，国文学研究資料館，日本経済新聞社，東京工業大学附属図書館の各施設で講義を受けたり，大学図書館情報システムとは異なったそれぞれのシステム(日経NEEDS国文学データベース)等を見学でき，この様な機会がなければとても見学ができない様な所へ行けましたことは，大きな収穫でありました。

以上，簡単に概略を述べましたが，今年は異常気象のため東京地方では7月末まで梅雨あけにならず，北海道から行った私にとつては大変助かりました。また本研究修会に参加したことによって，各大学の実情や業務の諸問題等について意見を交換し，相互の親睦を深め，多くの友を得ることが出来たことは大きな収穫であり喜びでもありました。

終りになりましたが，文部省，図書館情報大学，各施設並びに各講師の皆様方には大変お世話になりましたことを，この紙上をおかりしてお礼を申し上げます。

(工学部総務課図書整理掛)

◆ 統　計

部局別蔵書冊数

(昭和63年3月31日現在)

区分 / 部局	和書	洋書	合計	備考
附属図書館	442,810	317,711	760,521	法学部を含む
教養分館	107,899	59,966	167,865	言語文化部を含む
文学部	84,860	104,762	189,622	
教育学部	64,908	25,734	90,642	
法学部	(60,829)	(108,592)	(169,421)	附属図書館所蔵
経済学部	55,722	43,921	99,643	
理学部	46,280	138,712	184,992	情報処理教育センター，実験生物センター含む
医学部	80,651	100,915	181,566	附属病院，アイソトープ総合センター含む
歯学部	13,713	12,965	26,678	附属病院含む
薬学部	4,871	12,989	17,860	機器分析センター含む
工学部	171,069	138,168	309,237	
農学部	189,867	104,985	294,852	附属農場，附属演習林含む
獣医学部	9,850	19,656	29,506	
水産学部	70,593	43,475	114,068	
教養部	15,855	8,140	23,995	
言語文化部	(15,893)	(47,922)	(63,815)	教養分館所蔵
環境科学研究科	9,293	4,202	13,495	
低温科学研究所	6,650	14,760	21,410	
応用電気研究所	5,299	15,475	20,774	
触媒研究所	3,007	10,435	13,442	
免疫科学研究所	1,420	6,010	7,430	
スラブ研究センター	1,527	11,283	12,810	
大型計算機センター	880	1,236	2,116	
事務局	1,824	156	1,980	保健管理センター含む
医療技術短期大学部	16,706	2,469	19,175	
計	1,405,554	1,198,125	2,603,679	

昭和62年度　部局別図書・雑誌受入冊（種類）数

区分 部局	図書							雑誌						
	和書			洋書			計	和書			洋書			計
	購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他		購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他	
附属図書館	3,345	1,706	2,336	3,024	565	3,491	14,467	252	1,520	—	401	302	—	2,475
教養分館	3,638	33	452	3,676	237	235	8,271	232	17	—	210	—	—	459
文学部	2,662	232	383	5,850	607	409	10,143	119	909	2	641	7	—	1,678
教育学部	1,809	25	481	526	9	255	3,105	263	401	—	198	6	—	868
法学部	(1,027)	(205)	(305)	(2,378)	(262)	(654)	(4,831)	(136)	(274)	—	(317)	(28)	—	(755)
経済学部	1,825	178	643	1,591	21	412	4,670	151	686	1	249	54	1	1,142
理学部	442	32	233	1,038	253	2,048	4,046	118	264	1	760	337	4	1,484
医学部	571	104	225	636	41	1,520	3,097	242	468	—	711	163	1	1,585
歯学部	333	17	380	156	12	360	1,258	124	124	—	205	30	—	483
薬学部	107	4	57	47	—	427	642	36	51	—	107	6	—	200
工学部	1,992	19	(24) 823	938	2	1,369	(24) 5,143	373	453	—	879	106	—	1,811
農学部	2,421	76	1,305	670	7	(5) 1,034	5,513	645	995	50	644	222	2	2,558
獣医学部	106	10	79	196	—	287	678	33	180	—	134	144	1	492
水産学部	912	27	318	146	—	980	2,383	185	1,024	3	253	389	2	1,856
言語文化部	(843)	—	(117)	(3,354)	(61)	(199)	(4,574)	(53)	(2)	—	(99)	—	—	(154)
環境科学研究科	509	116	109	152	9	185	1,080	38	81	1	117	35	1	273
低温科学研究所	75	2	92	96	9	310	584	23	294	2	92	190	1	602
応用電気研究所	122	—	22	185	—	442	771	30	120	2	125	10	—	287
触媒研究所	20	—	—	158	—	(11) 242	(11) 420	13	1	—	45	15	—	74
免疫科学研究所	8	—	—	32	—	202	242	14	102	1	52	—	—	169
スラブ研究センター	128	12	25	1,743	86	361	2,355	5	142	1	(9) 139	(1) 57	1	(10) 345
大型計算機センター	26	—	—	96	—	—	122	35	33	2	52	—	—	122
医療技術短期大学部	1,055	36	216	137	—	39	1,483	139	138	—	43	—	—	320
合計	22,106	2,629	8,179	21,093	1,858	14,608	70,473	3,070	8,003	66	6,057	2,073	14	19,283

法学部は附属図書館に，言語文化部は教養分館に含まれる。
上段の（　）書は学内管理換により増となった分で内数である。

昭和62年度　附属図書館利用統計

(開館日数294日)

閲覧室名 / 部局名	開架図書室		書庫			語学演習室	参考図書室	北方資料室
	館外貸出		館内閲覧	館外貸出				
	人数	冊数	冊数	人数	冊数	利用者数	利用者数	利用者数
文学部	2,231	4,268	1,147	915	1,913	27	1,466	589
教育学部	423	815	168	158	281	1	206	103
法学部	2,638	4,900	676	641	1,129	57	597	90
経済学部	1,021	1,930	74	71	119	70	504	21
理学部	2,326	4,213	31	38	51	20	216	20
医学部	201	335	—	2	2	2	28	8
歯学部	362	759	1	6	6	—	27	6
薬学部	316	593	7	8	13	1	12	1
工学部	1,082	2,133	16	21	27	10	148	190
農学部	626	1,170	10	15	18	42	160	44
獣医学部	106	217	—	1	1	—	25	3
水産学部	—	—	—	—	—	—	7	5
教養部	5,866	11,772	175	193	292	37	596	649
研究所他	—	—	—	—	—	1	154	36
医療短大	307	546	5	9	10	2	32	1
教官	473	888	390	2,210	7,162	7		
職員	822	1,816	18	210	335	—		
院生	1,910	3,597	480	2,677	8,792	175		
学外者	102	156	1,517	363	963	—	659	833
利用者合計	20,812		1,977	7,538		452	4,837	2,599
利用冊数合計		40,108	4,715		21,114	484	293[1)]	1,585[2)]

注 1) 国連資料，OECD資料，EC資料，図書館学資料のみ（参考図書は貸出しない）
2) 館外貸出冊数のみ（室内利用含まず）
3) 参考図書室，北方資料室の利用者数は，教官・職員・学生こみの人数

昭和62年度　文献複写・相互利用統計

I. 国内：附属図書館相互利用掛を経由して学外へ依頼した件数（国立・私立とも）

申込部局	附属図書館	文学部	法学部	教育学部	経済学部	理学部	歯学部	農学部	獣医学部	水産学部
件数	14	157	370	4	15	4	2	55	11	2

申込部局	教養部	言語文化部	環境研	応電研	触媒研	免疫研	スラブ	実験生物セ	医療短大	合計
件数	2	44	111	78	15	12	5	8	125	1,034

II.　国内：　新方式（国立大学等図書館相互における文献複写）で各部局図書掛が受付・依頼を行った件数

部局	附属図書館	文	教	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	低温	合計
受付	2,592	211	141	136	—	1,325	—	108	1,071	1,319	425	338	86	7,752
依頼	584	319	67	86	591	684	96	133	558	275	229	227	129	3,978

III.　国外への依頼件数（参考調査掛）

英	米	西独	オランダ	カナダ	ソ連	オーストリア	スェーデン	その他	合計
293	261	65	24	18	18	18	12	32	741

IV.　図書館間相互貸借（相互利用掛）　○他館への貸出　492 冊　○他館からの借用　179 冊

V.　附属図書館マイクロ・電子複写業務実績（館内分を除く）（相互利用掛）

複写室／申込者	件数注)（件）	複写論文点数（点）	処理枚数・コマ数 総数	内訳 電子複写（枚）	マイクロフィルム（コマ）	マイクロフィッシュ（枚）	引伸焼付（枚）	リーダープリンター（枚）
学内者	528	1,167	34,542	5,584	8,701	—	10	20,247
学外者	3,794	5,639	69,221	65,629	12	—	—	3,580
合計	4,322	6,806	103,763	71,213	8,713	—	10	23,827

注）件数は申込延人数と同じ。（複写不能分を含まず）

VI.　参考質問（参考調査掛）

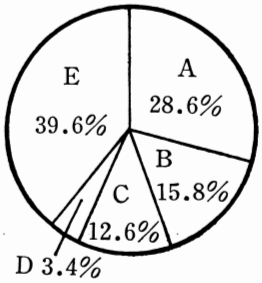
1.　部局別質問件数

文学	教育	法学	経済	理学	医学	歯学	薬学	工学	農学	獣医	水産
670	160	299	273	323	190	48	34	386	239	54	26
教養	言語	環境	低温	応電	触媒	免疫	スラブ	医短	事・他	学外	合計
270	32	70	28	29	55	14	33	47	197	2,277	5,754

2.　質問内容別件数

文献所在調査	3,259
書誌調査	527
事項調査	554
利用指導	1,273
情報検索	141
合計	5,754

3.　質問分野別比率



A：　人文・社会系部局
B：　理工系部局
C：　医学・生物系部局
D：　事務局他
E：　学　外

昭和62年度　教養分館利用統計

(開館日数294日)

閲覧室等名 / 利用部局等	開架図書室 館外貸出		語学演習室		ビデオ視聴室	
文学部	1,474冊	778人	12巻	12人	46巻	46人
教育学部	227	128	3	3	1	1
法学部	436	241	31	31	28	28
経済学部	462	255	29	29	54	54
理学部	2,475	1,476	16	16	13	13
医学部	408	247	28	28	25	25
歯学部	178	93	0	0	3	3
薬学部	300	170	2	2	4	4
工学部	2,228	1,325	59	59	129	129
農学部	220	122	22	22	25	25
獣医学部	146	93	1	1	3	3
水産学部	1	1	0	0	0	0
教養部	42,452	24,831	576	576	1,494	1,494
医療短期大学部	188	106	2	2	1	1
教官	619	326	24	10	48	25
院生	1,148	589	45	45	93	93
職員	1,731	917	8	3	4	3
学外者	44	34	7	7	16	16
合計	54,737	31,732	865	846	1,987	1,963

昭和62年度　教養分館分類別館外貸出統計

類別	0	1	2	3	4	5	6
冊数	1,885	2,434	305	4,200	750	22,599	1,775
類別	7	8	9	文庫新書	雑誌		合計
冊数	1,113	5,040	5,198	9,354	84		54,737

昭和62年度 CLARK 統計

端末機設置部局名①	台数	図書データベース登録数 年間増加②	累積⑤	(和書)	(洋書)	学術情報センター登録累積⑥	雑誌データベース登録数 所蔵誌数⑦	受入点数⑧	製本単位	貸出状況 研究室⑨	一般貸出	検索回数1台平均⑩ 利用者用	業務用
附属図書館	21	10,600	*123,789	81,031	42,758	*87,400	14,249	2,449	166,316	24,617	40,108	20,845	5,340
遡及入力	15	88,590	④ —	—	—	—	—	—	—	—		—	1,023
法学部	1	☆	☆	☆	☆	☆	☆	829	☆	9,297		10,198	
スラブ研	1	719	1,698	332	1,366	☆	☆	228	☆	3		2,811	
教養分館	7	7,447	*66,474	52,762	13,712	*33,794	426	533	6,098	6,898	54,503	14,354	4,000
教養部	1	△	△	△	△	△	△	△	△	3,639		557	
言語文化	1	△	△	△	△	△	△	△	△	14,106		1,456	
文学部	6	6,383	16,067	6,011	10,056	11,178	1,880	1,076	2,701	13,779		3,997	6,307
教育学部	3	2,197	6,945	5,563	1,382	4,974	1,655	890	1,333	8,443		6,726	5,938
経済学部	4	2,844	*32,929	17,993	14,936	*24,969	2,149	926	1,503	34,754		7,562	11,540
理学部	5	1,619	4,097	1,164	2,933	3,115	3,186	1,698	3,039	5,382		16,346	9,179
医学部	5	1,356	3,429	1,795	1,634	2,419	3,921	1,897	4,639	2,144		6,200	6,949
歯学部	2	412	966	637	329	608	483	515	0	723		2,002	3,938
薬学部	2	162	482	328	154	356	316	219	1,041	198		7,774	5,078
工学部	7	2,621	6,555	4,278	2,277	3,816	3,570	2,217	3,930	8,053		5,727	69,852
農学部	7	2,357	5,614	4,179	1,435	3,472	3,340	1,914	2,044	6,363		5,438	5,618
獣医学部	2	357	752	359	393	558	877	487	343	601		2,482	2,088
水産学部	4	1,019	2,313	1,955	358	1,247	3,033	1,499	2,353	2,520		1,806	5,391
環境科学	1	776	1,607	1,259	348	1,213	373	330	2,514	4,143		10,530	
低温研	1	282	575	366	209	448	977	631	1,562	31		3,754	
応電研	1	0	116	92	24	94	301	155	1,176	128		2,295	
触媒研	1	146	415	42	373	339	160	77	170	38		4,440	
免疫研	1	40	113	30	83	33	101	65	412	113		1,462	
医療短大	1	1,243	2,779	2,408	371	2,092	277	260	1,138	1,354		3,807	
教育大学	12	483	4,873	4,101	772	2,487	49	—	—	5,162		901	
合計	112台	③ 139,657冊	282,588冊	186,685冊	95,903冊	183,612件	30,074誌	18,895誌	202,312冊	152,489冊	94,611冊	10,923 4,157	6,062
												総合計 733,264回	

注記 ①部局名＝附属図書館には大計センター，農学部には農場と演習林，理学部には情報処理教育センターほかの数字を含む。☆欄は附属図書館に△欄は教養分館に含まれる。②年間増加＝DBへの登録冊数。部局別内訳は S. 62. 5. 25–63. 3. 31 のもの。③年間増加合計＝S. 62. 4. 1–62. 5. 24 まで 8,004 の冊を含め年度計とした。④遡及入力の 88,590 冊は＊印に含まれる。⑤および⑥累積＝S. 63. 9. 20 現在。⑦所蔵点数＝純タイトル数（重複は1誌として集計）。⑧受入点数＝現在受入しつつある点数（重複を含む）。重複を差し引いた全学の純タイトル数は 12,843 誌。⑨研究室貸出＝システムに登録されている件数。⑩検索回数＝蔵書検索画面で検索語を入力し実行キーを押した回数。

システム管理部会

昭和63年度　第1回　昭和63年6月17日（金）

1　システム強化テストについて

5月から学術情報センター接続枠拡大（目録システム35台同時稼動）を目的としてシステム強化テストを実施した。

2　雑誌ケース2について

雑誌ケース2を採用するにあたって，①学術情報センター接続枠の確保　②学術情報センター（学総目）と北大雑誌書誌との書誌調整方針　③上記方針による北大内作業手順・分担等について雑誌部会で検討する。

3　学術情報センターの接続枠拡大について

雑誌ケース2の運用開始・北海道教育大学のケース2全面稼働等を考慮して業務量をもとに接続枠使用枠を再検討する。

4　学情センター対応関係

重複書誌対応，物理単位の扱いの対応（30個で分割）が学情センターから明示された。北大（接続館側）でも全学がこれに添った処理をすることがシステム管理上からも必要である。

5　上級プログラム講習会について

昭和63年度の標記講習会を8月第1週から始める。

図書情報システム運用部会

昭和63年度　第1回　昭和63年7月21日（木）

1　システム管理部会委員2名の推薦について

2　出版物理単位の多い資料の書誌の分割にともなう対応について

VOLフィールドの繰り返しが30回をこえる資料について，NCDB上では別書誌をつくって運用されることとなった（「オンライン・システムニュースレター」14号）が，CLARKは，検索上の効率を考慮して，これまで通り一書誌で運用していくこととした。

雑誌情報システム運用部会

昭和63年度　第2回　昭和63年8月25日（木）

1　雑誌ケース2について

雑誌の書誌・所蔵データの新規作成・修正については，特に問題のない場合は，学術情報センター経由で行うが，当面はCLARKとの併用とする。なお，所蔵データの削除については，各部局で学術情報センター経由で行うことができるようになった。

2　図書・雑誌区分について

年鑑・年報類を学術情報センターの方針に沿い雑誌として統一して取扱う場合の問題点を提示し，各部局に持ち帰り次回までに意見を取りまとめることになった。

サービスシステム運用部会

昭和63年度　第2回　昭和63年9月27日（火）

1　研究室貸出図書リストの出力について

リスト出力は，原則として年1回（5月上旬）とし，附属図書館と部局担当者との共同作業で行うことに決定した。なお，資料番号順リストも必要なのでシステム課に依頼することになった。

2　遡及入力における所在表示について

所在表示はわかる範囲で詳細入力しておいた方が便利であるという結論に達した。

3　NACSIS-MAIL の利用について

システム課より，CLARK システムで NACSIS-MAIL の利用が可能になったとの報告があった。

電　算　化　記　録 (8)

昭和63年6月～9月

年月日	事　　項	年月日	事　　項
63. 6. 17	63年度第1回システム管理部会	63. 8. 25	63年度第2回雑誌情報システム運用部会
63. 7. 4～8 26～29	学情センターと共催で「目録システム講習会（地域講習会）」開催。学内より25名，道地区4大学から11名，計36名受講	63. 9. 14 〃	日本電気との定例打合せ会議（第37回） 第12回北教大との接続に関する定期協議会
63. 7. 19 〃	日本電気との定例打合せ会議（第36回） 第11回北教大との接続に関する定期協議会	63. 9. 20 63. 9. 27	自然科学系部局所蔵図書データ遡及入力打合せ会議（自然系13部局出席） 63年度第2回サービスシステム運用部会
63. 7. 21	63年度第1回図書情報システム運用部会		

データベース登録件数（昭和63年10月1日現在）

1. 北大 DB 登録雑誌書誌件数

和　雑　誌　16,166	洋　雑　誌　16,959	計　33,125

2. 北大 DB 登録図書書誌件数

和　書　書　誌　95,023	計　168,024 件	(DB 登録総冊数)　291,871 冊
洋　書　書　誌　73,001		

◆ 受贈図書

本学教官著作物

〔本　　館〕

○名誉教授

田　中　　一　　研究過程論　北海道大学図書刊行会 1988

横　道　英　雄　　連続体の力学　鹿島出版会 1988

○農　学　部

飯島源次郎・黒柳俊雄（等編著）　農業新時代への農政対応　農林統計協会 1988

吉　田　　稔　　21世紀に向けてのいも作り　いも類振興会 1986

〃　　バレイショ増収1,000問答　いも類振興会 1987

〃　　まるごと楽しむジャガイモ百科　農山漁村文化協会 1988

○獣医学部

菅野富夫（訳）　動物の痛み　Ralph L. Kitchell 等編　学窓社 1988

○言語文化部

中　村　健之介　　ドストエフスキーのおもしろさ　～ことば・作品・生涯～　(岩波ジュニア新書 138)
岩波 1988

◆ 人事往来

○図書館委員会委員

山　下　　格	(医学部附属病院教授)	63. 9. 16　(再任)

○退　　職

浅　井　郁　美	(情報管理課教養分館整理掛)	63. 6. 11
土　谷　雅　子	(情報管理課受入掛)	63. 7. 9
渡　辺　純　子	(情報サービス課教養分館閲覧掛)	63. 9. 30

○採　　用

田　中　美　鈴	(情報管理課教養分館整理掛)	63. 7. 1
土　谷　里　香	(情報管理課受入掛)	63. 8. 1
吉　川　依　里	(情報サービス課教養分館閲覧掛)	63. 10. 1

○配置換等

三　浦　　淳	農学部営繕掛 (情報システム課学術情報掛)	63. 7. 1

訃　　報

前学術情報課長山田常雄氏 (享年 47 歳) には，病気療養中のところ，昭和 63 年 10 月 7 日，療養先の岐阜市において逝去されました。

ここに慎んで哀悼の意を表します。

同氏は，昭和 60 年 4 月に設置されました，学術情報課の初代課長として兵庫教育大学より赴任され，昭和 62 年 10 月東京工業大学附属図書館整理課長としてご転任されるまでの 2 年 6 カ月間，本学図書業務の電算化に献身的に従事され，現在の「北海道大学図書館オンラインシステム」を完成されました。

北海道大学附属図書館報 「楡蔭」　(通巻 76 号)
1988 年 10 月 31 日 発行　　発行人　斎 藤 現 太 郎
編集委員　遠　昭二 (長)・久原秀志 (図)・山口國雄 (図)・高砂　慶 (図)・宇野洋子 (理)
片桐和子 (農)・伊藤秀治 (獣医)
発 行 所　北海道大学附属図書館　札幌市北区北 8 条西 5 丁目　電話代表　716-2111 (2967)
印 刷 所　文 栄 堂 印 刷 所　札幌市中央区北 3 条東 7 丁目　電話代表　231-5560・5561